

2023年 ノース場ホッケ新規加入量調査速報（2）

北海道立総合研究機構稚内水産試験場調査研究部 黒川大智 電話：0162-32-7166

魚群数は過去5年で最低

稚内水試では、毎年10月と11月の2回、稚内ノース場海域（図1）において、試験調査船北洋丸による計量魚群探知機調査と着底トロール調査（原則6回曳網）を実施しています。

本速報では、2023年11月8、9日に実施した第2回調査の結果を示します。今年の調査では、荒天のため、計量魚探調査を優先し、着底トロール調査は1回のみの実施となりました。なお、着底トロール調査ではローソクボッケに相当するサイズのホッケは漁獲されませんでした。そのため、加入量推定のために用いるローソクボッケ体長は、沖底漁獲物で代用しました。

計量魚探調査結果

- ・計量魚探調査は、南側・中央・北側のすべてのライン航走を実施しました
- ・観察された魚群数は9で、過去5年で最低でした（図2）
- ・魚群のうち、7群は調査ラインの北側で発見されました

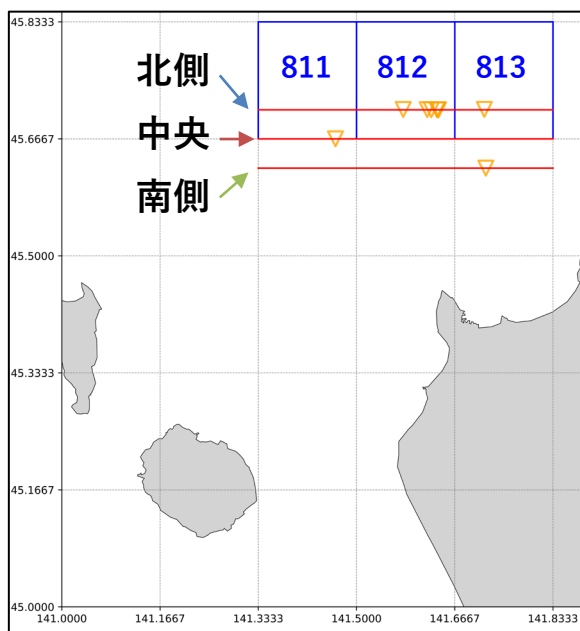


図1. 操業海域と調査ライン
（▽：魚群発見位置）

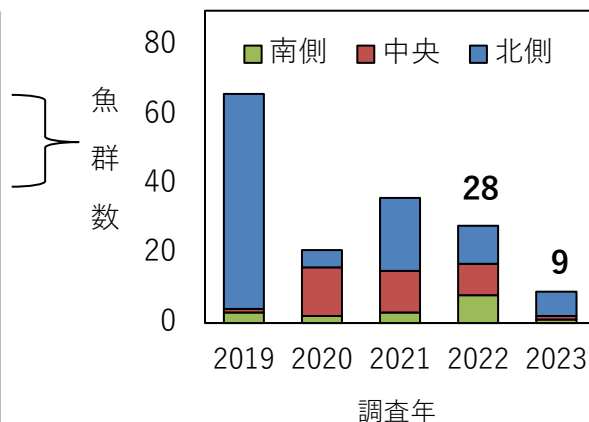


図2. 観察された魚群の合計

11月調査結果のまとめ

魚探調査における魚群数は、過去5年で最低となりました。魚群は、ほとんどが北側のラインで発見されました（7群／9群）。今回の調査では、トロール調査は1回のみの実施であったため2023年級の豊度について正確な判断はできませんが、近年と比較すると少ない豊度である可能性が示唆されました。

2023年級の加入豊度

- ・魚探調査で観察された魚群数と加入尾数との関係による推定

魚探調査で観察された0歳ホッケ魚群の数と加入尾数との間には正の相関があります(図3)。この関係から2023年級の加入尾数を推定すると、1億尾程度になります。

- ・0歳ホッケの平均体長と加入尾数との関係による推定

トロール調査で漁獲された0歳ホッケの平均体長と加入尾数との間には負の相関が認められます(図4)。一方、近年は、この関係がやや弱くなっている傾向があります。この傾向を考慮し、2012年以降の相関関係のみを用いて2023年級の加入尾数を推定すると、1.2億尾程度となります。

- ・現時点での2023年級の加入豊度

魚探調査で観察された魚群数から推定された加入尾数は、1億尾程度となりました。また、0歳魚の平均体長から推定された加入尾数は、11月の結果から推定すると、1.2億尾程度となりました。この関係から推定される加入尾数は変更となる可能性があります。

以上の結果から、2023年級の加入豊度は、過去5年間の中では比較的少ないと推定されます。

魚群数 (2023) : 9

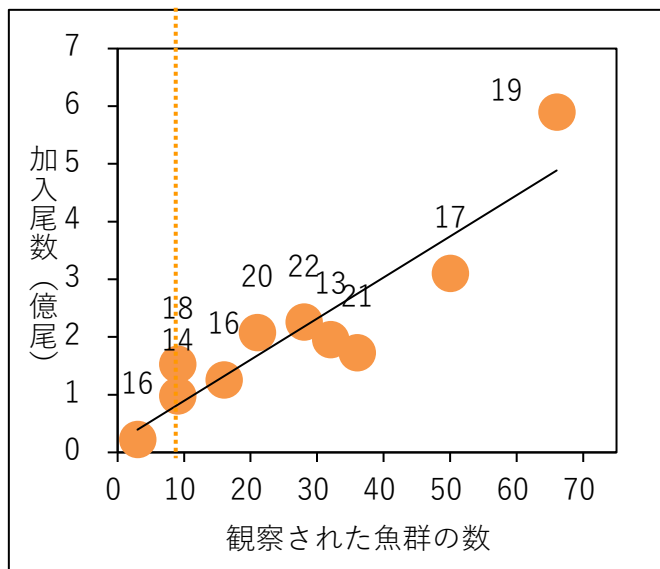


図3. 観察されたホッケ魚群数 (11月) と加入尾数との関係
(グラフ内の数字は西暦年をあらわす)

2023年級 : 218mm

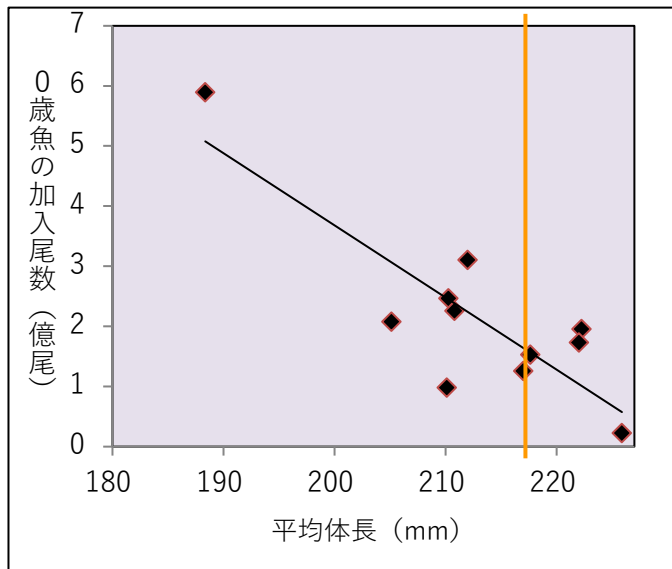


図4. 0歳ホッケの平均体長 (11月) と加入尾数との関係

～加入尾数について～

本速報で示した加入尾数は、豊度推定を行うにあたって算出した参考値であり、実際の加入尾数を示すものではありません。実際の加入尾数は、2023年級に関する複数の調査結果を総合して推定されます。本速報で行った推定の性質上、最新年の加入尾数は推定誤差が大きいため、本速報で示した値から大きくぶれる可能性があります。